

民俗芸能の心

# 炎が舞う

—那智の火祭り—



海から眺める鬱蒼と茂る濃緑の原生林の熊野の山の中腹に、一本の水銀柱が立っているのが見える。那智の大滝である。

かつて熊野灘を往き来した舟人は、この大滝を頼りの目じるしとし、海の難所を乗り切るための加護を大滝に祈った。

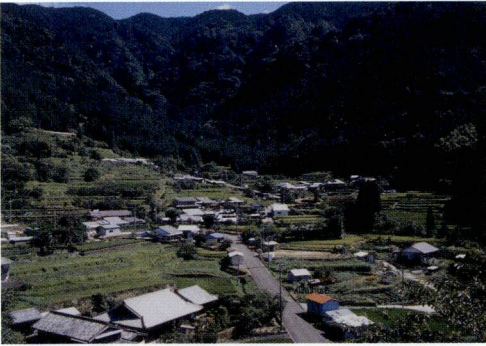
那智の大滝は、百三十三メートルの落差を誇る日本一の滝であり、滝元には別宮飛龍神社が祀られている。本宮の那智大社は大滝とは谷を隔てて向かい合う那智山の中腹にあり、この両社を往復して行われるのが世に知られる「那智の火祭り」である。熊野十二社権現を象徴する十二体の扇神輿が渡御するので、「扇会式」「扇祭り」と呼ばれていたが、参道での扇神輿を浄める大松明とのせめぎあいが壮絶であるので、「那智の火祭り」の名が定着した。

熊野信仰は古代からの伝承を受け継いできた。熊野三山とは奥熊野の熊野坐神社、新宮市の熊野速玉神社、これに那智大社を加えての総称であるが、山岳信仰、修験道のメッカとしてその信仰は全国に流布している。神武天皇が熊野に上陸し、八咫鳥の先導で東征の途についたという伝承を残し、平安時代中期以降、清和天皇、後白河法王、後鳥羽上皇が一再ならず熊野御幸を行っているばかりでなく、庶民の参詣も多く「蟻の熊野詣で」と称された。

そんな熊野での最大の祭が「那智の火祭り」であるが、この祭りを子細にみると、その根元にあるのは五穀豊穰を祈る農耕儀礼であり、農耕民族の生命を生み育てる祈りがこめられていることが分る。

扇神輿を先導する馬扇には虫追いの行事が関連し、田植舞、田刈舞の田遊びや華麗な田楽もまたそのことを示している。

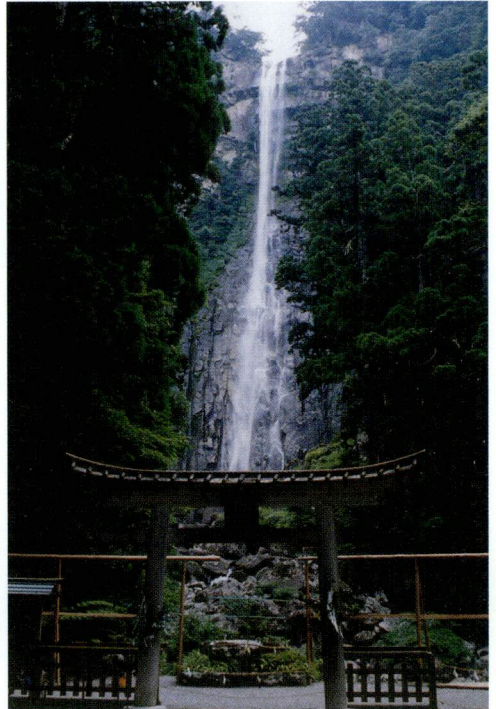
すべてを浄める大滝の水の精と大松明の火の精によって彩られる「那智の火祭り」は、まさに火と水の饗宴なのである。



重畳たる熊野の山並み



熊野十二所の神々を祀る熊野那智大社



日本一の落差をもつ名瀑、那智大滝



## 「炎が舞うー那智の火祭りー」をまとめて

「なんとしっかり構成された祭りなんだろう。」ー“那智の火祭り”について調べてみて、最初にもった印象です。

神迎え・神賑わいの田楽に始まり、田植舞いが続き、虫追い行事の要素が多くみられる火祭りを挟んで、田刈舞いへと移るー農業暦に沿った構成です。

中でも、クライマックスである火祭りの構成・展開の見事さはどうでしょう。熊野那智大社を出発した渡御の一行は、途中の広場「伏拝み」で「扇立行事」を行います。十二体の扇神輿を次々と立て飾り、あたかも扇が開くようなその光景を神主などが拍手して誉めそやす、美しく心とむむ行事です。この「伏拝み扇立行事」を“序破急”の“破”として、祭りは“急”である火祭りに展開していきます。

「伏拝み扇立行事」の後、お滝本に下った大松明と伏拝みに残った扇神輿の間で、オメキの交換や一・二・三の使いの派遣など、いくつかのやり取りが交わされます。これは、大松明と扇神輿がお滝本上の石階段のちょうど真ん中で出会うようにするための時間調整のやり取りと見ることができます。こうした寸分の緩みもない展開で、祭りは、燃え盛る十二本の大松明と十二体の扇神輿が石段の途中で揉み合うクライマックスへと盛り上げられていきます。

そのクライマックス・シーンに私は、次のナレーションをつけました。「虫追いなど様々な農耕儀礼の要素を採り入れながら、生命再生のドラマをかかえる壮大な野外劇に仕立て上げた創造力・構成力のたくましさは、どうだ。」

普通、われわれ映像作家は、あるテーマを与えられると、それをどう料理しようかと考えます。映像の構成・展開にどのような工夫をこらそうかと頭を絞ります。ところが、「那智の火祭り」だけは違いました。この緻密かつ骨太に構成された祭りに、一介の映像作家の構成力で立ち向かっても、どうなるものでもありません。実際に進行する祭りの構成・展開をできるだけ正確に捉えることに集中しました。

(これはこれで、映像作家として非常に楽しい作業でした。)

映画「炎が舞うー那智の火祭りー」を通して、那智の火祭りの構成のすばらしさ、展開の見事さを楽しんでいただければ、幸いです。

## 松本正樹（映画監督）



神賑わいの田楽が奉納される



オメキを合図に渡御がはじまる



お滝本に向う行列



伏拝みにて扇立てを行う



大松明と扇神輿の壮絶なせめぎあいは祭りのクライマックスだ



お滝本から一、二、三の使いが扇神輿を迎えに行く



扇神輿の飾り付けをする氏子たち



田楽の練習をする田楽保存会の人々



大松明を作る宮大工



火祭りの舞台となる石段

作品名：シリーズ＜民俗芸能の心＞

「炎が舞うー那智の火祭りー」

(35mm/カラー/32分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団

制作：(株)読売映像

監修：高橋秀雄

<制作スタッフ>

制作 萩原哲雄

制作補 岩淵智行

脚本・演出 松本正樹

撮影 大山照夫

金森重成

奥田伸二

喜多隆

西田勝義

撮影助手

梅本雄一

大根森基

大淵博道

山内 泰

佐藤和彦

角橋啓康

岩井寿光

谷 潔司

照明

現地録音

現地録音

江崎輝晃

平島健一

制作進行

西訪雅之

録音

読売映像

音楽

山崎 宏

ネガ編集

山田 弘

映像

イマジカウエスト

ナレーター

久米 明

<協力>

熊野那智大社

那智田楽保存会

那智山正義会

那智火祭保存会

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人 **ポーラ** 伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597